

## PANEL FITTING DEVICE

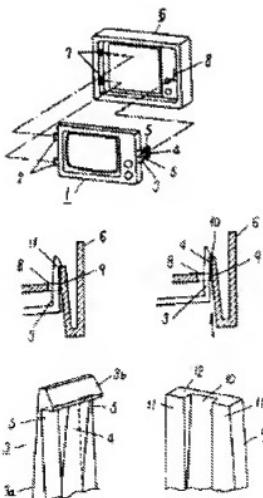
**Patent number:** JP58121880  
**Publication date:** 1983-07-20  
**Inventor:** HASHIMOTO KIMIO; NAITOU YASUO  
**Applicant:** MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD  
**Classification:**  
 - **international:** H04N5/64; H04N5/64; (IPC1-7): H04N5/65; H05K5/00  
 - **european:** H04N5/64  
**Application number:** JP19820004582 19820113  
**Priority number(s):** JP19820004582 19820113

[Report a data error here](#)

### Abstract of JP58121880

**PURPOSE:** To attain ease of removal to a cabinet, by fitting a panel surely with a latch piece provided incorporated with the panel without using a cushion member.

**CONSTITUTION:** A projection 2 of the panel 1 is inserted to a hole 7 of the cabinet 6 and the latch piece 3 is fitted to a hole 8. A step 4 of the piece 3 is inserted to a recess groove 10, the surface 5 of both sides of the step 4 is elastically contacted with the surface 11 of a latch projection 9, a nail 3b is latched to an upper surface 12 of the projection 9, and fitting is finished. In this fitting state, there is a clearance of several mm. between the panel 1 and the cabinet 6. In case of removal, a rigid thin piece is inserted from the said clearance to release the coupling wit a nail 3b and the latch projection 9.



Data supplied from the **esp@cenet** database - Worldwide

## ⑪ 公開特許公報 (A)

昭58—121880

⑤ Int. Cl.<sup>3</sup>  
 H 04 N 5/65  
 H 05 K 5/00

識別記号  
 行内整理番号  
 7013-5C  
 6332-5F

⑥公開 昭和58年(1983)7月20日  
 発明の数 1  
 審査請求 未請求

(全 3 頁)

## ⑦パネル取付装置

⑧特 願 昭57—4582

⑨出 願 昭57(1982)1月13日

⑩發明者 橋本公雄

門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内

⑪發明者 内藤靖夫  
 門真市大字門真1006番地松下電器産業株式会社内  
 ⑫出願人 松下電器産業株式会社  
 門真市大字門真1006番地  
 ⑬代理人 弁理士 中尾敏男 外1名

## 明細書

1 ページ

2

## 1、発明の名称

パネル取付装置

## 2、特許請求の範囲

パネル本体の一方の端部に突起を設け、他方の端部に本体部およびこの本体部の先端に連続して設けられた爪部とよりなり弾性を有する係止片を設け、かつこの係止片の一面に一端が爪部と接合しあつてこの接合部分の高さが爪部の高さと略等しくこの接合部分より離れるにしたがい高さが低くなるようにテーパー加工が施された段部を設け、キャビネット本体に前記突起、係止片がおののの嵌合する第1、第2の孔と、この第2の孔に嵌合した前記係止片の爪部と係合する部分および前記段部が嵌合する段部と同一形状の凹溝を設けた係合突部を形成したパネル取付装置。

## 3、発明の詳細な説明

本発明はテレビジョン受像機、陰極線管ディスプレイモニタなどにおけるパネルのキャビネットに対する取付装置に関するもので、パネルの着脱

が容易に行えるようにしたものである。

従来、キャビネットに対してパネルを着脱可能に取付けるようにした装置は、パネルとキャビネットが嵌合する面にゴム、フェルト、スponジ等のクッション材を介在せしめ、このクッション材による摩擦嵌合でパネルを保持するようになっていた。このため、経時変化による嵌合のがたつきが発生し、またクッション材をパネルあるいはキャビネットに貼付するための工数がかかり、コストアップを招く一要因となる等の欠点があった。

本発明はクッション材を用いることなく、パネルに一体に設けた係止片によりパネルの取付けが確実に行えるとともに、キャビネットに対する着脱が容易に行えるようにしたものである。以下その一実施例を添付図面を用いて説明する。

図において、1はパネル本体で、一側端部に複数の突起2を一体に設けている。3はこのパネル本体1の他側端部に一体に設けた係止片で、本体部3aとこの本体部3aの先端に連続して設けられた爪部3bとよりなり、弾性を有し、わずかに

外側に向かって傾斜させられている。この係止片3はまた、その突出方向にそって本体部3aの中央に表面がテーパーを有する段部4を一体に設けている。この段部4は一端が爪部3bと接合し、この接合部分での高さは爪部3bの高さと等しく形成せられ、この部分より本体部3aの根元に向かって高さが徐々に低くなるようにテーパーを有するものである。6は上記パネル本体1を着脱可能に取付けるキャビネット本体で、一方端部に前記突起2が嵌合する複数の孔7を有し、また他方端部に前記係止片3が嵌合する孔8を有するとともに、この孔8に連続して内部に係合突起9を一体に設けている。この係合突部9はその実設方向にそって中央部に前記段部4が嵌合する段部4と同一形状の凹溝10を設けている。すなわち、係合突部9の先端での深さが最も深く、係合突部9の根元部に向うにしがい徐々に浅くなるようにテーパー加工が施された凹溝としている。

上記構成においてパネル本体1のキャビネット本体6への取付けは、まずパネル本体1の突起2

をキャビネット本体6の孔7に嵌合させ、この状態で係止片3を他方の孔8に挿入嵌合させる。これにより第2図、第3図に示すように係止片3の段部4が凹溝10に嵌合し、かつ段部4の両側の面5が係合突部9の面11に弾性的に当接するとともに爪部3bが係合突部9の上面12に係合し、パネル本体1のキャビネット本体6への取付けが完了する。この取付状態において第2図、第3図に示すようにパネル本体1とキャビネット本体6との間には数mmの隙間があるようになっている。

したがってパネル本体1をキャビネット本体6より取外す場合は、キャビネット本体6とパネル本体1との隙間より、第3図で矢印にて示すように係止片3と係合突部9との間に剛性の薄板片(図示せず)を挿入して、爪部3bの係合突部9との係合を解除する。このとき、薄板片の厚みが段部4の最も高い部分の高さより厚ければ、薄板片をわずかに挿入するのみで爪部3bの係合を解除することができ、操作がより容易となる。そして係合を解除した後はパネル本体1を表面側へ引出せ

ばよい。

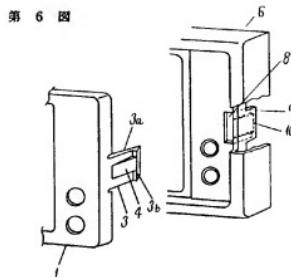
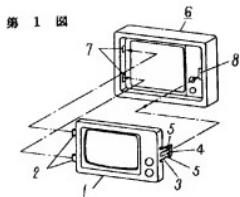
このように本発明によれば、係止片の爪部にてパネル本体のキャビネット本体への取付けが確実に行なえ、またパネル本体の取外しも係止片と係合突部との間に薄板片を挿入するだけで可能となり、その操作も容易となる。また、係止片、係合突部はおののおのパネル本体、キャビネット本体に一体に形成できるため工数が増加することもなく、その価値は極めて大なるものである。

#### 4. 図面の簡単な説明

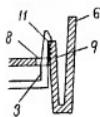
第1図は本発明の一実施例におけるパネル取付装置の分解斜視図、第2図、第3図はおののおのパネル本体を取付けた状態の異なる部分での断面図、第4図は係止片の斜視図、第5図は係合突部の斜視図、第6図は同装置の要部の分解斜視図である。

1 ……パネル本体、2 ……突起、3 ……係止片、4 ……段部、6 ……キャビネット本体、7、8 ……孔、9 ……係合突部、10 ……凹溝、5、11、12 ……面。

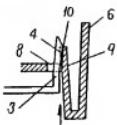
代理人の氏名 井理士 中 尾 敏 男 ほか1名



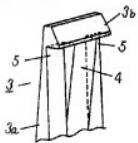
第2図



第3図



第4図



第5図

